県立の博物館が描く、百年後の静岡県の在り方。

県立の博物館「ふじのくに地球環境史ミュージアム」がオープンした。
世界的にも先進的なプログラムを配した館内は100年後の静岡を創造するエネルギーと期待に満ちている。

地球環境史とは何か？

地球環境史とは、人と自然の関係の歴史のこと。
ミュージアムはそこから未来の豊かさとは何かを考える。

今を生きる私たちは、快適で便利な暮らしを追求し、豊かな社会を築いてきました。
一方で私たちはいま、人間活動の肥大化がもたらした様々な環境リスクに脅かされています。
古来より、人は自然と関わりながら文明を発展させてきました。
ただひたすらに自然を収奪した文明。自然を畏れ敬い、調和を大切にした文明。その先に何があったのでしょうか。

1 地球環境史との出会い
地球環境史とは何か？海や大地に刻まれた記録は、人と自然の歴史を伝え、未来を照らす道しるべとなります。

2 ふじのくにのすがた
ふじのくにの自然は、私たちのくらしに豊かな恵みを与えてくれる一方で、時として脅威となり平穏な日常を奪います。

3 ふじのくにの海
日本一深い湾、駿河湾を有するふじのくにの海には、多種多様な水生生物がすみ、豊かな海の幸をもたらしてくれます。

4 ふじのくにの大地
あらゆる生物は、「食う－食われる」の食物網でつながっています。私たち人間も例外ではありません。

5 ふじのくにの環境史
縄文時代から現代に至る歴史の中で、ふじのくににすむ人と自然の関係は、どのように変化してきたのでしょうか？

30年の時を経て今春オープン

2016年3月26日。「ふじのくに地球環境史ミュージアム」がオープンした。1986年、静岡県の総合計画に「県立博物館構想の推進」という文言が記されて以来、30年を経ての開館だ。

開館への動きが加速したのは平成15年度。自然史資料の収集保管事業が始まり、収集した資料を2箇所の県有施設に保管してきた。その後、統合・廃校となった静岡南高校の校舎への移転が決まり、校舎の改修を経て今春のオープンにこぎつけた。

博物館の宿命を打破する試み

ふじのくに地球環境史ミュージアムは、地球環境史を「人と自然の関係の歴史」と定義し、そこから未来の豊かさとは何かを考えていくことを使命としている。そこには、自然に刻まれた痕跡を知ることで、今後も人類が地球で生存していくための議論を活性化しようという狙いがある。学術のベースは環境考古学だが、自然史を内包した環境史を取り扱うのは博物館として全国初だ。

同ミュージアムは時代の変化に対応できる博物館を目指している。元来、自然系博物館は完成直後こそ最新の資料を展示できるが、時間の経過とともに情報が色褪せ、場合によっては真偽がくつがえることもある。そこで同ミュージアムは「情報発信」「教育普及」「調査研究」「収集保管」という博物館の4大機能のうち、特に調査研究機能に重点を置くことにより、常に展示情報を更新し、時代の先端を走り続けようとしている。この姿勢は博物館として本来あるべき姿であり、来館者のリピーター化を促す効果も期待できる試みだ。

議論を促す先進的な展示方法

有度山西麓の高台に建つ館内からは、駿河湾、静岡市の街並み、南アルプスなどが見えるため、静岡県の地球環境史をうたう博物館として好立地だ。館内の随所に色濃く残る学校の面影にも同ミュージアムの理念が息づいている。

館内には1～10の展示室があり、それぞれに「ふじのくにの大地」「ふじのくにの環境史」などのテーマが掲げられている。工夫を凝らした展示方法は美しくて見やすい上に、各テーマの核心を直感的につかめるようにデザインされている。中でも特徴的なのはドーナツ型の会議テーブルがある展示室9。ここは研究者が講師として立ち、来館者と環境ジレンマについて議論する場であり、研究者自らが最新の情報を伝えることができる。議題は人口爆発や食糧問題など、地球レベルで考えるべきテーマが随時設定され、議論に必要な情報や設問も提示される。例えば、水不足の問題では「将来、使える水の量は現在の4分の1になる。さてどうする？」といった具合だ。

展示室9に続く展示室10には議論の答え合わせを思わせる展示が並ぶ。水不足の問題では少量の水から大量な泡を作り出す昆虫・アワフキムシの生態を示しながら、10分の1の水量で泡のお風呂を作る技術も紹介する。

地球環境史を学び、議論を促し、これからの技術とともに今後の暮らしを考えるスタンスは、まさに「人と自然の関係の歴史から未来の豊かさを考える」という同ミュージアムのコンセプトに合致する。

子どもの好奇心を喚起する

同ミュージアムのキャッチフレーズは「百年後の静岡が豊かであるために」だ。この文言には日本の縮図と言われる静岡県の多様な自然を読み解けば、日本全体、ひいては地球全体の豊かさを創出できるという期待が込められている。その上で鍵を握るのは将来を担う子どもたちの存在だ。

同ミュージアムは大人だけでなく、子どもの好奇心を喚起する仕組みを取り入れるとともに、多くの図鑑を常設した図鑑カフェを館内に併設し、くつろぎながら自由に閲覧できるほか、家族連れの来館を促すキッズルームも備えている。図鑑カフェやキッズルームは入館料を払わなくても利用できるため、博物館を日常生活の1シーンとして捉える人も増えるだろう。

静岡県から世界へ提言

地球という大自然と共存・共栄するために人類はどうすべきか。世界中の人たちが豊かな暮らしを続けるためには、無理や無駄のない持続可能な取り組みを考える必要もある。そんな地球レベルの課題をクリアする上で、同ミュージアムが果たすべき役割は大きい。多種多様な標本、最先端の情報、議論を促す画期的な試みで人々の関心を引き付けることができれば、静岡の百年後は豊かなものになるに違いない。

静岡県から世界へ向けて提言を。「ふじのくに地球環境史ミュージアム」に寄せられる期待は世界レベルだ。

6 ふじのくにの成り立ち
県内各地から産出する岩石や鉱石、そして化石が、ふじのくにの成り立ちや、大昔の自然や生物の存在を語ります。

7 ふじのくにの生物多様性
ふじのくにの変化に富む自然環境に育まれた多様な生物たちを、収集した多くの標本を通して紹介します。

8 生命のかたち
ここは脊椎動物たちの教室。黒板の座席表を見ながら出欠をとってみましょう。返事はしてくれないと思いますが。

9 ふじのくにと地球
地球家族会議テーブルを囲んで、私たちが生きているふじのくにと地球の"7＋1の環境リスク"を知りましょう。

10 ふじのくにと未来
心豊かに暮らすとはどういうことでしょうか。百年後の静岡が豊かであるために、私たちが今できることを考えます。

ふじのくに地球環境史ミュージアム
Museum of Natural and Environmental History, Shizuoka

静岡県静岡市駿河区大谷5762（旧静岡南高校）
電話／054-260-7111
開館時間：10:00～17:30（最終入場は17:00）
休館日／毎週月曜（月曜が祝日の場合は次の平日）、年末年始

自家用車でお越しの場合
- 東名高速道路静岡ICから15分
- JR静岡駅から20分
  国道150号バイパスから「大谷放水路東」を北上し、消防署前交差点を右折。
- 駐車場 無料（200台）

公共交通機関でお越しの場合
- 静岡駅北口バスターミナル
  8-B乗り場から美和大谷線
  「ふじのくに地球環境史ミュージアム」行き
  終点下車